

### 3 縦割り活動・異学年交流

6年生を中心とし、金曜日の朝の時間を利用して1年生から6年生が一緒に遊び、関わり合う活動を実施している。事前に6年生が遊びの計画を立てる際には、「全員が楽しめるような活動」を目指し、チーム分けやルール説明に工夫を加える様子が見られる。また、縦割り活動当日は、最上級生としての自覚やもちながらリーダーシップを発揮する姿や、低学年に対して分かりやすく丁寧な言葉遣いで話をしたりする児童の姿も多く見られた。

そして、そのような6年生の姿を見た他学年の児童も、提示されたルールを守りながら元気よく遊ぶことができている。全学年がそろって縦割り集会は、6年生が最高学年としての責任を果たす場であり、異学年の児童が仲よく関わるができる機会である。



6年生が考える遊び



元気いっぱい・仲よく遊ぶ

### 4 学級活動



6年「こんなクラスに」



3年「ぼかぼかの木」



2年「あいさつの木」

各学年・学級で、一人ひとりが集団の一員であることの自覚をもち、よりよい生活を送るために必要なことを児童主体で考えた。ここでは、3つの例を紹介する。

6年生では、自分たちの理想とするクラスの特徴を挙げ、それらをキーワード化して図に表していった。「最終的にどんなクラスにしていくか」という部分まで迫って考えることで、目標をもち、その目標に向かってクラス全員で取り組むことの大切さを確認することができた。

3年生では、友達にしてもらって嬉しかったことや、友達の良いところを見つけ、「ぼかぼかの木」として掲示し、紹介し合う活動を行った。自分達の生活をもう一度振り返り、友達との関わりの中で「嬉しかった場面」についてじっくり考えさせていった。この活動により、児童は親切な行動をお互いに認め合い、思いやりをもって行動することの気持ちよさを感得することができた。

2年生では、「あいさつの木」を作成し、気持ちのよいあいさつをすることの大切さについて考える活動を行った。事前に「あいさつの仕方」を話し合い、あいさつは人と人をつなぎ、お互いが気持ちよく生活するためにはなくてはならないものであることを確認した。この活動により、自分から進んであいさつをする児童が増え、元気な明るいあいさつが飛び交うようになった。

上記のように、友達や教師など学校の様々な人々との活動を通して、児童は、自分たちの学級や学年、学校全体に目を向けて生活している。また、共に生活をしていく楽しさを味わいながら、互いの存在を認め大切にしていこうとする心をもつことができた。